

こどもを真ん中に、学校・保護者・地域と「つながる」「3Y」通信



矢口ニュース

令和8年9月25日（金）No.25

学校内外の様子を、「やってみよう!」「やさしく、げんきに」「やりぬこう!」のテーマを中心に、よりタイムリーに発信していきます。

個別面談どうぞよろしくお願いいたします。

～3つの観点に基づく個別指導計画（目標）について～

矢口ニュース No. 6（5月13日発行）でもお伝えしましたが、今年度の個別指導計画は、文部科学省の学習指導要領に基づき、教科ごとに「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点で目標を記載しています。（評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」で記載）

個別面談では前期に努力してきたこと（評価）を振り返り、後期にさらに取り組みたいこと（目標）を共有し、子供たちの「できた（知識及び技能）」「分かって活用できた（思考力、判断力、表現力等）」「もっとやってみよう！（学びに向かう力）」の3つの観点をバランスよく育む授業を心掛けていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



教科等	目標
国語	・好きな物の名前を聞いて、その物へ視線を向けたり、指さしをしたりできる。 ① 知識及び技能 身に付けたい知識及び技能
	・身近な人からの簡単な言葉掛けに注目し、発声や身振りなどで応じて答える。 ② 思考力、判断力 表現力等 上記①を「分かって活用する力」
	・読み聞かせ等の中で、言葉がもつ楽しさに触れ、教員と一緒に活動しようとする。 ③ 学びに向かう力、人間性等 家庭や地域でも「やってみよう」とする力

文部科学省ホームページより

個別指導計画・国語の目標例

（道徳、日常生活の指導、自立活動以外を3観点で表記しています）

～3つの観点に基づく個別指導計画（評価）について～

「できた」、「分かった」、「もっとやってみよう」とする力の育成を目指して

3つの観点での目標に対し、評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」で記載しています。前期に取り組んできたことを全て記載することはできないのですが、その中でも特に達成できたこと、努力できたことを記載しています。

学校や教室で「できる（知識・技能）」だけではなく、学校で学んだことを家庭や地域でも生かすことができるよう、学んだ知識・技能を「分かって活用できる力（思考・判断・表現）」、家庭や地域でも「やってみよう」とする力（主体的に取り組む態度）」の育成を目指して評価を記載しています。

個別指導計画・算数の評価例

（道徳、日常生活の指導、自立活動以外を3観点で表記しています）

算数	・物と物とを一対一に対応させることによって、物の同等や多少を判断できる。 ・物の集まりから、指さしや手元の物を操作したり、数量を表現したりする。 ・算数的な遊びに興味をもち、教師が提示した教材に自ら手を伸ばして、最後まで意欲的に関わろうとしている。	内容・手だて省略	・『個別課題』では、教材を提示すると、穴の開いた容器にビー玉を一つずつ入れ、教員の数唱に合わせて一緒に3まで正しく数えることができました。	①知識・技能 ビー玉を一つずつ入れることができた。教員と数えられた。
			・『パン屋さんごっこ』では、指示された数のパンを一つずつ皿に置くことができました。また、教員と一緒に確認する際は、発声しながら数えることができました。	②思考・判断・表現 上記①を生かしごっこ遊びの中でも「分かって活用できた」
			・ごっこ遊びに興味をもち、自ら手を伸ばして教材に関わろうとすることができました。「パン！」とうれしそうに発声して喜びを表すなど、意欲的に活動に参加しようすることができました。	③主体的に学習に取り組む態度 上記①②を「やってみよう」と取り組むことができた。もっとやりたいと表現している。

「できた」、「分かった」、「もっとやってみよう」のイメージ図



①知識・技能

ビー玉を一つずつ入れることができた。教員と数えられた。



②思考・判断・表現

左記①を生かし、ごっこ遊びの中でも「分かって活用できた」



③主体的に学習に取り組む態度

左記①②を「やってみよう」と取り組むことができた。もっとやりたいと表現している。

イラストは Microsoft copilot で作成

地域・家庭生活でも「やってみよう」とする力へ

